

VOL. 137

各国の「食」とADRAの支援活動
日本：国内水害被災者支援
世界のADRAから

世界がわかる。ADRAがわかる。

ADRA

EST.1985 2023

News 9



ADRA Japanの活動 “食”を見つめた人道支援

お弁当を食べるネパールの子どもたち。ネパールでは手で食事をすることが多いため、健康に暮らすためには、手洗い習慣や安全な水の確保が大切(写真：ネパールの小学校にて)

ADRA Japan 事業マップ

ADRA Japanは、約120の国と地域に支部を持つ世界最大規模の国際NGOであるADRAの日本支部です。人種・宗教・政治の区別なく支援活動を行うことをモットーに、海外および日本国内の各地にて様々な活動を行っています。



TÜRKIYE, SYRIA
トルコ・シリア

地震被災者支援
→ p.7



ZIMBABWE ジンバブエ

教育環境改善支援

ジンバブエでは子どもたちが安心して教育を受けられる環境が整っていない地域が多く、家庭の方針から学校に通えていない子どもも大勢います。現在ジンバブエ北部の小学校3校で、子どもたちが教育の機会を得られるように、住民の方と一緒に学校の校舎を造り、教育の大切さを伝える家庭訪問も実施しています。同時に、学校の運営能力の向上にも努めています。



集落を訪問し、子どもを持つ親への教育啓発を実施



SLOVAKIA スロバキア

ウクライナ避難民支援

ウクライナの隣国スロバキアでは、ウクライナから避難してきた方々が今も多く生活しています。十分な収入を得られない方や心の寄りどころがない方に、食料や現金などを支給しているほか、生活相談や心のケアを提供しています。これまで延べ4,000人以上の方々の避難生活を支えてきました。今後も人々に寄り添ってまいります。



避難国で生活するウクライナの方々の状況を確認し、生活支援の現金を手渡す



UKRAINE ウクライナ

人道支援

→ p.7



ETHIOPIA エチオピア

アムハラ州北ウォロ県紛争危機対応水衛生支援

2020年11月に発生したティグレイ紛争の影響により多くの国内避難民が発生しました。エチオピア北部アムハラ州では給水設備が壊れ、干ばつも重なり、水不足が深刻です。現在、ADRAは治安状況に注意を払いつつ、壊れた給水設備を修繕し、緊急トイレの設置、水衛生用品の配付など、国内避難民の水衛生環境を改善する活動を続けています。



アムハラ州のジャラ国内避難民キャンプで石鹸やバケツなどの水衛生用品を300世帯に配付

AFGHANISTAN アフガニスタン



食料支援

アフガニスタンでは、現在国民の92%の人々が食料危機に陥っています。十分な食事が摂れず慢性的な栄養不足な上、衛生知識の不足から手洗いなどで簡単に防げる病気にかかることもあります。ADRAは現在、バミヤン県で食料配付と衛生・栄養啓発に取り組んでおり、人々が最低限の健康を保てるよう支援を続けています。



1回あたり1か月分の食料を各世帯に配付

MYANMAR ミャンマー



国内避難民支援

ミャンマーでは約190万人が内戦などのため家を追われ国内での避難生活を続けています。また、大型サイクロンの襲来による被害により、家を失い支援を必要としている人々もいます。ADRAはこのような方々に、当面の食料や、生活環境が少しでも改善されるよう感染症対策・衛生予防の物品を配付する準備を進めています。



今年2月には東部カレン州で、約6,000人分の食料を配付

JAPAN 日本



国内災害被災者支援

→ p.6

YEMEN イエメン



農業復旧支援

イエメンではもともと国民の多くが農業を営んでいましたが、8年以上続く紛争で井戸や灌漑設備が壊れ、生計を立てられなくなってしまった方が大勢います。ADRAは農業の再開を望んでいる人々に寄り添い、井戸や設備の復旧に取り組んでおり、「これでまた家族を養える」と喜ばれています。インタビュー動画をぜひご覧ください <https://bit.ly/468gZFR>



農業の再開を希望する一人ひとりを訪問し、家計の状況や畑の状態を確認



NEPAL ネパール

栄養・水衛生

ネパール西部のバルディア郡では、多くの住民が水質の悪い井戸水などに依存した生活を送っています。乳幼児や妊産婦の栄養状態もネパールのほかの地域より悪く、対応が必要な地域の一つです。ADRAは住民の方とともに安全な水の普及に努め、水に関する住民の衛生意識の向上を図ります。また、地域の母子保健を担う保健ボランティアの意識や知識の向上にも取り組んでいます。

教育支援〈ナマステ基金〉

ネパールの就学率は高まっていますが、貧しい家庭環境や昔からの社会風習のため、いまだに学校へ通うことが困難な子どもが多くいます。ADRAでは、スポンサー皆さまの温かいご支援のもと、今年度は67人の子どもを支援しています。継続した教育を受けることで、多くの子どもたちが将来への道を開けます。ご支援して下さる方を引き続き募集しています。



学校に通う子どもたちの笑顔はキラキラと輝いている



乳幼児を持つ母親への聞き取り

ADRA International
(世界本部)

- ご紹介している事業は皆さまからのご寄付のほか、以下の機関・団体から助成や支援を受けて実施しています(以下敬称略)。
- 日本NGO連携無償資金協力(ウクライナ、ジンバブエ、ネパール)
- 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(アフガニスタン、イエメン、ウクライナ、エチオピア)
- 公益財団法人 テルモ生命科学振興財団(ネパール)
- 公益財団法人 風に立つライオン基金(ネパール)
- 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」(国内災害被災者支援)
- 花王ハートポケット倶楽部(ジンバブエ)

● ADRA Japan 実施事業

■ 世界のADRA支部がある国と地域

ADRA JAPANの活動

“食”を見つめた人道支援

秋と言えば「食欲の秋」や「実りの秋」という言葉が頭に浮かぶ方も多いかと思いますが、新米や柿、栗などが収穫され、日本人にとっては食になじみがある季節です。人が心身ともに健康的な生活を送るうえで、何をどう食べるかということは大切な要素です。今回は「食」にまつわるADRAの支援について、お伝えしたいと思います。

UKRAINE ウクライナ

食料配付にはひまわり油を

ウクライナの国花であるひまわりは、今、ウクライナの平和を願うシンボルにもなっていますが、実はウクライナでは、食用として広く親しまれています。夏になると目にすることができる、あたり一面のひまわり畑は、そのほとんどが切り花としてではなく、食用として出荷されます。ひまわりの種から採れる「ひまわり油」は、ウクライナの家庭で使用される最も一般的な調味料の一つです。また、ウクライナでは

ひまわりの種の中身をナッツのように食べる食文化もあります。

ウクライナは先月8月だけでも517回の空爆があり、住宅の被害や市民の犠牲が増えるなど今も戦禍の中にあります。ADRAは、国内で戦争の影響を受けている方や、隣国スロバキアで避難生活を送っているウクライナの方々に、食料の配付を続けています。その折、菜種油でもなく、オリーブオイルでもなく、「ひまわり油が良い」という



2023年7月に撮影されたウクライナのひまわり畑



ウクライナの方からの声を大切に、必ずひまわり油を入れるようにしています。日々、爆音を耳にしながら、好きな食材を自由に手に入れることができない状況にある方々に寄り添い、今後も人々が慣れ親しんだ食料を届けることで、少しでも避難生活を下支えしてまいります。



食料配付に梱包するひまわり油

NEPAL ネパール

手で食べるからこそ大切なこと

ネパールの代表的な家庭料理であるダルバートは、一つのお皿にごはん、豆のスープ、野菜のおかず、付け合わせソースが盛られている料理です。箸やスプーンは使わず、右手だけを使って、お皿の上でご飯とおかずを混ぜながら器用に口に運びます。食事の前に手を洗う習慣はありますが、この水が汚染されているケースが多く、病気になるリスクが高くなっています。そこでADRAは、ネパールの中でも特に保健衛生関係の指標が低いバルディア郡にて、ヤマハ発動機の浄水装置の導入のほか、水質の良い水を村に行き渡らせる高架水槽の設置や衛生啓発を進め、



「手で食べる方が何倍も美味しい!」と言うネパールの方々の食習慣と人々の健康が守られるように活動しています。

ネパールでは右手だけ使って、食事をする習慣がある

AFGHANISTAN アフガニスタン

食事の隠し味は

アフガニスタンといえば、じっくり煮込んだ肉、レンズ豆、レーズン、ニンジン、カルダモン、ナッツをお米と一緒に炊き込むカブリ・プラオが有名です。しかし、繰り返す干ばつと政変



料理は「ダスタルカン」と呼ばれるアフガニスタンの伝統的な、床に敷かれた布に並べる

の影響で貧困が広がり、今や人口の92%が十分な食事をとれていません。ADRAは、バーミヤン県内の2つの地域で特に支援を必要としている家庭に、1か月分の小麦、豆、油、塩を3回に分けて届けています。食料を受け取ったゾーラさんは、近くのマーケットで手に入れることができたトマトとマカロニを、支援の油と塩で調理し、受け取った小麦でナンをつくりました。ダスタルカンと呼ばれる伝統的な布の上に並んだ食事には、ご寄付をお寄せくださった皆さまのやさしさも入っています。

ZIMBABWE

ジンバブエ

お昼ご飯は校庭で

教育支援に取り組んでいるジンバブエでは、住民の方と建設を進めてきた校舎がひとつ3月に完成しました。嬉しいことに、子どもたちは毎日熱心に勉強しています。学校給食はないので、子どもたちは朝、家から、サザ（白トウモロコシを湯がいて作ったもの）と、油で炒めた野菜、落花生、お豆などをタッパーに入れて持ってきます。みんなで校庭に集まって食事をする姿は、とても楽しそうです。しかし、家庭の経済状況から、お昼ごはんを持って来られない子どもも少なくありません。今後、ADRAでは、学校給食を提供できるようにご寄付のお願いや助成金の申請などに取り組み、子どもたちが、より元気に楽しい学校生活を送れるように支えていきます。



校庭に集まってお昼ごはんを食べる子どもたち

ウクライナのひまわり油、ネパールの手食、アフガニスタンの食卓、ジンバブエのお弁当。食にまつわる新しい発見が、皆さまご自身の食の豊かさにもつながりますように。

JAPAN 日本

日本各地を襲った豪雨災害

今年の6月から9月にかけて、日本では関東圏内、九州北部、秋田県を中心に複数回にわたって大雨が続き、多くの地域で被害が発生しました。今回は日本各地におけるADRAの支援状況をお伝えいたします。

6月は台風2号が日本列島に接近したことで、茨城県取手市は1時間に40ミリを超える激しい雨に見舞われました。この影響で、河川の氾濫、土砂崩れ、倒木、道路の崩落、住宅の浸水被害など、大規模な被害が発生し、6月4日までに約600軒の床上床下浸水がありました。ADRAは自治会館にスタッフを2か月半常駐させ、自治会や社会福祉協議会、支援団体などと連携しながら、困りごとの相談対応や、雑巾950枚、飲料品600本、市指定ゴミ袋1,200枚、ブルーシート、簡易トイレなどの支援物資の提供を行いました。6

月から8月にかけては、被災してから心身ともに休むことができない住民の方々に、少しでもリラックスしていただけるように、足湯や鍼灸のサロンを計8回開催しました。

7月には九州北部でも豪雨被害が発生し、ADRAでは、2017年にも支援に入った、福岡県東峰村への支援を実施しました。浸水したご自宅の床下乾燥のために使用するサーキュレーターや、[SEMA]という民間企業と市民団体(CSO)が連携して被災地支援を行う仕組みを利用し、企業から無償提供していただいた飲料品480本、ボディシート500枚を災害ボランティアセンターへ届けています。

秋田県でも7月に大雨によって複数の河川が氾濫し、冠水や住宅の浸水により県内の約6,000軒が床上床下浸水の被害に遭いまし

た。ADRAでは、秋田県においてもサーキュレーターの貸し出しを行いました。

9月8日からの台風13号は、福島県、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、静岡県などの各地に被害をもたらしました。ADRAは9月15日千葉県夷隅郡大多喜町で雑巾300枚、飲料品144本、ボディシート120枚などを配付し、今後必要とされる支援の準備をしています。

全国各地の被災地ではまだまだ復旧作業が続く現実があります。ADRAは今後も被災地での活動を継続し、現場の声を大切に、寄り添った支援を提供していきます。

ADRAでは、ブログにてより詳しい国内災害被災者支援の様子をお伝えしております。

ブログはこちらから

<https://bit.ly/3rpxAGn>



茨城県取手市双葉地区での足湯や鍼灸サロンには延べ115人が参加して下さった



床下にサーキュレーターを設置する東峰村社会福祉協議会職員



世界のADRAから

約120か国と地域に支部を持つADRAは、世界各地で活動しています。数ある活動の中から、一部をご紹介します。

UKRAINE ウクライナ

ダム決壊。被災されている方々へ命をつなぐ飲料水を配付

今年6月6日、ウクライナではカホフカのダム決壊による洪水で、周辺の37以上の集落が浸水しました。この影響で約70万人が飲料水を得ることが困難な状況となったため、ADRAは発災2日後より6リットルのペットボトル3,456本を乗せたトラックをヘルソンに送り、8月にはドニプロ州の被災地にも同数の飲料水を配付しました。現在も16,000人が避難せざるを得ず、冬の寒さをしのぐための薪ストーブや生活家具を必要としています。ADRAは他団体との重複支援を避けるために行政と調整しながら支援を実施していきます。



荷台いっぱい6リットルのペットボトルを積みこんだ



飲料水を手入するのが困難なヘルソン州の集落で配付を実施

TÜRKIYE, SYRIA トルコ・シリア

皆さまからのご寄付がADRAの支援を通して人々の生きる希望に

トルコとシリアの国境近くで起きた大地震から約7か月が経ちました。ADRAは現在もシリアのアレッポ県、ラタキア県を中心に食料や衛生用品の配付、安全な水の提供、生計回復支援など、延べ約35万人に支援を届けることができます。避難所で家族と暮らすモハメッドさんは言います。「シリアの内戦で家を転々とせざるを得ない中、5回目の引っ越しで住んでいた家が地震で全壊し、私たちの人生は終わったと感じました。でもADRAスタッフの温かい笑顔、気遣い、援助に出会い、希望を持てるようになりました」。皆さまからのご寄付がADRAの支援を通して人々の生きる希望になっていますことを感謝いたします。



衛生用品パッケージを受け取る男性



学校の修復支援も実施している

ADRA Japanを
支えてくださる方を
ご紹介します!

アドラの
チカラ



野澤百合さん
(会社員)

—ADRA Japanを知ったきっかけ

フィリピン人の先生からオンライン英会話を習っており、フィリピンの貧困やインフラの問題、生活状況などいろいろなことを聞き、2021年12月のフィリピン台風の際には直接その甚大な被害について聞きました。その際にADRAのことを知りました。

—ADRA Japanとの関わりについて

フィリピン台風のオンライン支援報告会に参加し、ADRAの援助活動について詳しく知ることができました。Build Back Betterの支援方法は本当に素晴らしいと思いました。その報告会に参加したこと、そこで学んだことを自分の周りの人や英会話の先生に話したところ、みんな熱心に耳を傾けてくれました。WebページでADRAのちくちくボランティアのことを知り、仲間と共に無理なく参加させていただいています。

—ADRA Japanの魅力や関わっていてよかったことを教えてください

ADRA NewsやWebページで、寄付金や雑巾などの支援が正しく適切に使われていることが分かるのでとても安心しています。ADRAの理念にも共感しています。

—まだADRAのことをご存じない方へのメッセージをお願いします

慌てて無理に寄付をする必要はないと思います。Webページや報告会に参加してみて、これなら私にもできるかもと思ったら、その時の気持ちに従ってできる範囲で支援をするのが一番だと思います。いろいろな寄付の形・思いやりの形があります。〇〇しなくてはという義務感ではなく明るく優しい思いやりの気持ちを、ADRAというきっかけを通して持っていただけたらいいと思います。

—ADRA Japanへのメッセージをお願いします

数多くの辛い現場を目の当たりにすることは本当に辛く大変なお仕事だと思います。しかしそれに目を背けることなく現状を正確に把握し、緊急支援、次の生活を見越した支援と、本当に熱心に真摯に取り組まれていると思います。どうかこれからもその志を保ち続けてください。

古本寄付でできる教育支援

2023/9/11~11/10

寄付金額10%UP
キャンペーン実施中！

キモチと。



ブックオフの宅配買取サービスを活用すると、お金ではなくモノで寄付ができます。活動を支えてください。



QRを読み込んでお申込み下さい。

不要な古本、CD、ゲームソフトなどが 送料無料で、寄付金に変わる！

ビジネス書や漫画などの本、CD、DVD、ゲームソフトなどの買取をしているブックオフには、「キモチと。」という社会貢献プログラムがあります。ADRAはその寄付先のひとつです。専用のサイトからお申し込みの上、送料無料で不要なものを送るとその買取金額が、ADRAへの寄付になり、教育支援など子どもたちの未来をひらく活動に役立てられます。

9/11~11/10までの期間は、寄付金額が10%UPになる、年に1度のキャンペーン期間です。不要なものを箱に詰めて申し込むだけで、配送ドライバーが送料無料で集荷に伺います。ぜひこの機会にご参加ください！

詳細・お申込みはQR、または以下のURLをご覧ください

<https://bit.ly/3EDT1Xh>

応援メッセージ

国内水害被災地において使用する、ぞうきんを縫ってくださるちくちくボランティアさんから応援メッセージをいただきました！

少しではありますが、ぞうきんを縫いましたので送ります。先日の台風被害にて、ぞうきんを送られた記事を拝見しました。これからこういった被害も増えてくるかもしれません。本当は被災地へ行き、活動ができれば一番よいのですが、都合もなかなかつきません。「ちくちくボランティア」は家からできる支援として、大変有意義だと思います。引き続き、ぞうきんを縫って、定期的に送りたいと思っています。被災地で活動されていると思いますが、お体にお気をつけて、がんばってください。

(C・A様より)

ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ADRA News 137号 2023年9月1日発行

発行人 青木 泰樹
発行 特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045 FAX: 03-5474-2042
E-mail: support_adra@adrajpn.org
Facebook: adrajapan Twitter: ADRA_Japan
Instagram: adra_japan

団体概要

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
(JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿)駅 徒歩2分)
代表者 柴田 俊生(理事長)
事務局責任者 青木 泰樹(常務理事/事務局長)
創立年月日 1985年3月30日

Justice,
Compassion
Love



ADRA

デザイン: 細山田デザイン事務所